

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	体育補助金事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	一緒に運動を楽しむ仲間を増やし、リーダーを育成する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	気軽に運動ができるように、仲間に囲まれ、指導者にも恵まれている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 体育協会、レクリエーション協会、スポーツクラブ等補助金		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
県大会以上への出場者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		23	25	25	27	27
	実績値	23	16				
単位	人						
スポーツクラブ登録者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		200	200	200	200	200
	実績値	215	189				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			8,015千円	8,160千円	
人件費	a 事業費合計		6,229千円	6,387千円	6,844千円
	正規職員	人数	0.3人	0.3人	
		b 金額	1,786千円	1,773千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,786千円	1,773千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			8,015千円	8,160千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			116円	119円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	子どもの人口が減少していく中、スポーツクラブの会員数が減り続けてしまうとクラブの存続にも影響を及ぼす。スポーツクラブの種目数の増加、総合型化等充実を図る必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	各団体の魅力を、様々な機会を通してPRしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	助成団体のより効率的な運営及び各助成団体相互の関係強化	
今後、改善・拡大する事業	事業名 体育補助金事業	内容、理由、時期等 体育協会、レクリエーション協会、スポーツクラブにそれぞれ補助金を交付し、独自運営をしているが、種目やそれぞれの構成団体等を見直すなど組織強化を目指していく。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	スポーツ振興事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	誰もが楽しみながら運動に親しみ、健康的な生活を送っている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育大会ほか各種大会の開催 ・学校体育施設スポーツ開放 ・各種スポーツ教室の開催 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
スポーツ賞表彰対象者	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		60	62	64	66	68
	実績値	59	47				
単位	人						
市民体育大会参加者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		3,700	3,700	3,700	3,750	3,750
	実績値	3,635	3,686				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			20,453千円	21,068千円	
人件費	a 事業費合計		8,551千円	9,250千円	10,338千円
	正規職員	人数	2人	2人	
		b 金額	11,902千円	11,818千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		11,902千円	11,818千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			20,453千円	21,068千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			297円	306円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市民大会の開催、施設の開放、スポーツ教室等の実施により、評価項目は、概ね達成している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	事業によっては、市民に対して周知不足の点もあるので、より決め細やかな周知を心がける。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	各事業を再評価しながら、それぞれの足りない部分を補足していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	体育施設維持管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	11 子どもから高齢者まで気軽にスポーツを楽しみ、健康に暮らしている		
②大施策	誰もが気軽に運動を楽しみ、健康に暮らせるまちをつくる		
③中施策	誰もが運動を楽しめる機会や場をつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	健康的な生活を送るため、快適な環境で運動に親しんでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・福祉体育館及び体育施設等にかかる維持管理運営等		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
福祉体育館及び体育施設等の利用者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		216,600	216,800	217,000	217,200	217,400
	実績値	216,412	223,209				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			90,953千円	109,302千円	
人件費	a 事業費合計		86,787千円	105,165千円	116,427千円
	正規職員	人数	0.7人	0.7人	
		b 金額	4,166千円	4,137千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		4,166千円	4,137千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			90,953千円	109,302千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			1,322円	1,589円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	指定管理料が大部分を占めており、モニタリングを通して、評価項目をチェックしており、概ね妥当と判断している。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	予定されている各種営繕工事について、利用者の立場に立った工事を心がける。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理者制度の切替時期が近づいているので、他市町の情報を収集し、より良い指定管理者制度としていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	公民館管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	それぞれの教養を高めながら活発に交流している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・中央・南部公民館の管理運営事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
中央・南部公民館 利用件数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		2,600	2,650	2,650	2,700	2,700
	実績値	2,585	2,681				
単位	件						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			26,274千円	33,050千円	
人 件 費	a 事業費合計		20,323千円	27,141千円	18,151千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	4人	4人	
		金額	3,836千円	3,977千円	
人件費合計		9,787千円	9,886千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			26,274千円	33,050千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			382円	480円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標値を達成しているが、従来から利用している団体が多い。利用者の高齢化が進んでいるので、目標値を継続して達成するには若い世代にも利用してもらう必要がある。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	市民課機能が、公民館にも導入されてきたので、各種サービスの対応に留意していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	効率的な施設運営を、常に考慮していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	文化広場管理事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	多様な人が、健康で文化的素養を相互に高めている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・文化広場管理運営事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
勸使会館の利用人数 (和室)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		4,250	4,250	4,250	4,300	4,300
	実績値	4,225	4,104				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度		決算額		予算額	
		平成27年度	平成28年度	平成29年度	
① 総事業費(a+b)		8,356千円	7,850千円		
人件費	a 事業費合計	6,570千円	6,077千円	6,689千円	
	正規職員	人数	0.3人	0.3人	
		b 金額	1,786千円	1,773千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		1,786千円	1,773千円		
② 補助金等(収入)		0千円	0千円	0千円	
③ コスト(①-②)		8,356千円	7,850千円		
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))		121円	114円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	指定管理者制度を導入しているため、モニタリングにより適正に管理運営されていると判断している。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	指定管理者制度導入済のため、なし	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理者制度導入済のため、なし	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等 指定管理者制度導入済のため、なし
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等 指定管理者制度導入済のため、なし
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等 指定管理者制度導入済のため、なし
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	青少年対策事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域ぐるみで子どもを育て、見守る環境をつくる		
④中施策事業の対象	市内小中学生及び地域の人たち		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	小中学生が、それぞれの地域で、地域の人たちに支えられ、生き生きと暮らしている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	放課後子ども教室の運営・親子ふれあい事業・成人式・家庭教育推進市民大会・家庭学級等		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
放課後子ども教室 登録児童数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		240	260	280	300	320
	実績値	256	252				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			29,809千円	40,659千円	
人件費	a 事業費合計		17,311千円	34,159千円	35,491千円
	正規職員	人数	2.1人	1.1人	
		b 金額	12,498千円	6,500千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	23人	12人	
		金額	10,128千円	2,972千円	
人件費合計		22,626千円	9,472千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			29,809千円	40,659千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			433円	591円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	市内9小学校のうち3校で放課後子ども教室を開催できていないので、小学生が平等にサービスを受けられる機会を提供できていない。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	直営、委託を問わず、教室内容の充実を図る。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	委託3小学校での適正な開催日数設定によるコスト縮減	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) 放課後子ども教室の新設	内容、理由、時期等 放課後子ども教室未設置小学校での新規開校
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等 なし
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	社会教育活動事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	17 子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動している		
②大施策	子どもが地域とつながり、大人になったときにも地域で活動できるまちをつくる		
③中施策	地域活動を活発にする		
④中施策事業の対象	市内小中学生		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	小中学生が、地域の人たちに支えられ、活発に活動している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員活動事業 ・各種団体補助金事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
文科系ジュニアクラブ数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		6	7	7	7	7
	実績値	6	6				
単位	クラブ数						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			7,776千円	8,100千円	
人件費	a 事業費合計		4,800千円	5,145千円	5,325千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	435千円	796千円	
人件費合計		3,411千円	3,751千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			7,776千円	8,100千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			113円	118円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	子どもの人口の減少の中、各所属クラブが減少することなく、継続的な活動が達成できている。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	所属クラブにおける指導者不足の改善	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	関連団体との連携を構築する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称) クラブの新規加入	内容、理由、時期等 C J Cの知名度向上による会員増加・新規所属クラブ設立を目指す企画の開催
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等 なし
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	文化会館管理運営事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	文化会館館長 稲熊篤子
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	文化的素養を育み、文化、芸術を発信している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 文化会館施設管理事業 文化会館施設運営事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
利用者数(29年度 ホール耐震工事、 30年度指定管理)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値			136,000	58,000	136,500	137,000	137,500
実績値	135,172	148,089					
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
目標値			0	0	0	0	0
実績値	0	0					
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			207,335千円	215,857千円	
人 件 費	a 事業費合計		195,433千円	204,039千円	423,014千円
	正規職員	人数	2人	2人	
		b 金額	11,902千円	11,818千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	4人	4人	
		金額	2,564千円	3,101千円	
人件費合計		14,466千円	14,919千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			207,335千円	215,857千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			3,014円	3,137円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	文化会館管理運営事業として施設の安定的な運営ができ、多くの人に安心して利用していただけました。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	改修工事のスムーズな進行及び指定管理者制度への移行	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	施設管理及び指定管理者制度の安定的な運用	
今後、改善・拡大する事業	事業名 文化会館施設管理事業	内容、理由、時期等 施設設備等の計画的な改修
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	文化会館自主事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	文化会館館長 稲熊篤子
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	新しい文化を醸成する		
④中施策事業の対象	施設利用者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	様々な文化・芸術に触れたり、参加したりしている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 演劇や音楽などの公演事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
公演来場者数（29年度ホール耐震工事、30年度指定管理）	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		3,000	0	3,100	3,200	3,300
	実績値	2,944	2,967				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			20,181千円	19,183千円	
人件費	a 事業費合計		14,230千円	13,274千円	0千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,951千円	5,909千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			20,181千円	19,183千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			293円	279円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	さまざまな文化・芸術を鑑賞したり参加したりする機会を設けることができた。
-----------------------------	--------------------------------------

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	29年度ホール改修工事のため実施できず	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理者と調整を図りながら、さまざまな文化・芸術を鑑賞したり参加したりできるようにする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 文化会館自主事業	内容、理由、時期等 指定管理者と調整を図りながら、さまざまな文化・芸術を鑑賞したり参加したりできるようにする。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	文化財保護事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の歴史・伝統・文化を正しく認識し、愛着をもって継承している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護、継承のための助成事業 環境整備事業 文化財等公開事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
一般公開見学者数 (ナガバノイシモチソウ)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		510	520	530	540	550
	実績値	500	860				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			19,715千円	23,048千円	
人件費	a 事業費合計		10,788千円	14,184千円	28,992千円
	正規職員	人数	1.5人	1.5人	
		b 金額	8,927千円	8,864千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	1人	1人	
		金額	199千円	205千円	
人件費合計		9,126千円	9,069千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			19,715千円	23,048千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			287円	335円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	成果指標は目標値を達成しているが、今後も着実に達成できるようにするために、文化財に関する情報提供の強化が必要。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	文化財の保全に努める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	文化財への知識を深めることができるよう、ホームページの内容を見直す。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	市史編さん事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の歴史・伝統・文化を正しく理解している		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 市史編さんのための資料整理事業 市史編さんのための資料提供事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市史販売数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		20	20	20	20	20
	実績値	25	20				
単位	冊						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			5,708千円	5,763千円	
人件費	a 事業費合計		2,732千円	2,808千円	2,869千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	2人	2人	
		金額	2,499千円	2,528千円	
人件費合計		5,475千円	5,483千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			5,708千円	5,763千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			83円	84円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	現在は資料整理が主な事業となっているので、大施策に大きく貢献するまでには至らない。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	円滑に資料整理を進める。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	平成19年3月以降発刊していない市史について、今後の方向性を検討する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	陶芸の館管理事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	高木 安司
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住、在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	かつての陶芸産地であった歴史的経緯を理解し、現在も文化を継承するとともに発信し続けている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・陶芸の館の管理運営事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
陶芸の館利用者数	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		2,200	2,300	2,400	2,500	2,600
	実績値	2,164	2,099				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			5,599千円	5,466千円	
人件費	a 事業費合計		2,623千円	2,511千円	2,841千円
	正規職員	人数	0.5人	0.5人	
		b 金額	2,976千円	2,955千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		2,976千円	2,955千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			5,599千円	5,466千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			81円	79円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	現時点では概ね適正に運営できているが、今後の施設の老朽化を踏まえ、一層のコスト縮減が必要。コスト縮減のため利用率の増加にも配慮する。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	設備更新の必要の有無を洗い出する。会議等陶芸利用以外の貸出しについてもPRしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	公園内に位置していることから、立地を生かした利用形態等も研究していく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名 陶芸の館管理事業	内容、理由、時期等 陶芸施設としての利用PRを更に図るとともに、陶芸施設以外としての活用も研究していく。
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日 平成29年 11月 1日

中施策事業名	市民文化育成事業	部課名	教育部・生涯学習課
		作成者	文化会館館長 稲熊篤子
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	歴史・伝統・文化の保護・継承を支援する		
④中施策事業の対象	市内在住・在勤者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	世代や分野を問わず、文化的な素養を高め、発信し続けている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民フェスティバル開催事業 ・ ジョイントコンサート開催事業 ・ 市民文化講座開催事業 ・ 市民美術展開催事業 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民文化講座等の 参加者数(29年度 ホール耐震工事、 30年度指定管理)	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		1,600	220	1,650	1,700	1,750
	実績値	1,551	2,406				
単位	人						
	事業実施年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
	目標値		0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標と同じ

■コスト

事業実施年度			決算額	決算額	予算額
			平成27年度	平成28年度	平成29年度
① 総事業費(a+b)			9,984千円	10,325千円	
人 件 費	a 事業費合計		4,033千円	4,416千円	3,444千円
	正規職員	人数	1人	1人	
		b 金額	5,951千円	5,909千円	
	非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0人	0人	
		金額	0千円	0千円	
人件費合計		5,951千円	5,909千円		
② 補助金等(収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト(①-②)			9,984千円	10,325千円	
市民一人あたりコスト (③/市の人口(評価対象年度末時点))			145円	150円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか(事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	実行委員会等を立ち上げ活発に活動できた。市民美術展等においては、多くの出展及び鑑賞者で賑わった。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	ホール改修工事のため事業縮小して行う	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	指定管理業者と調整を取りながら市民の芸術の発展及び市民文化育成に努める	
今後、改善・拡大する事業	事業名 市民文化育成事業	内容、理由、時期等 指定管理業者と調整を取りながら市民の芸術の発展及び市民文化育成に努める
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
(昨年度の評価書を参照) 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
(昨年度の評価書を参照) 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		